

由比地区園小中一貫教育

ゆいゆい
由比結だより

令和5年6月発行

令和5年度 第1回目の由比結協議会が 由比北小学校で開催されました！



昨日、6月14日（水）に令和5年度第1回目の由比協議会が由比北小学校を会場に行われました。

全体会では、由比中学校の海野グループ統括校長から今年度の園小中一貫教育の推進計画と共に、コミュニティスクールに関する情報提供もしていただきました。

昨年度の成果と課題を受けて、今年度は更に由比地区の園小中一貫教育を「ブラッシュアップ」していきたいと思えます。

会場校の由比北小学校では、強みとしている小回りのきく教育活動の具現として、今年度、特に力を入れていく「ICT教育」と「地域を学びの舞台とした実社会とつながる学習」を公開しました。

学校評議員でもある石切山連合自治会長をはじめ、中山間地支援員の笹間さん、ゆい結びあいのボランティアの皆様にもゲストティーチャーとして授業に参加していただき、子どもたちに地域の方々の生の声をたくさん届けてくださいました。

石切山自治会長から地域への熱い思いをお聞きしました。



低学年は近くの畑で取らせてもらった梅でジュースを作りました。



「ゆい結びあい」の方にボランティアについて質問しました。



ICTを活用して浜石岳について発表しました。



公開授業後の分散会では、「地域との連携について」というテーマで、評議員の皆様方と意見交換を行いました。その中で改めて地域の皆様方の温かいご支援と見守り、由比地区の子ども達への期待の大きさを実感いたしました。

今後も地域の皆様方とのつながりを大事にし、地域に根差した教育活動を展開していきたいと思っております。貴重なご意見をありがとうございました。



〈 評議員の皆様からのご意見 〉

- 小規模校だからこそ本物の体験ができる。
- 地域を巻き込んだ活動を進めていけば、市も動かせる。(思いが実現できる活動に)
- 同じ由比地区でも小規模だからできることが多い。
- 核家族化、昔のおじいさん、おばあさんがしてくれたことを学校がやっている。
- 地域のイベントや行事に参加することで関わりやつながりができるのではないか。
- 学校のニーズと地域の力が上手くかみ合っていない。そういう意味では統括コーディネーターのようなパイプ役が重要になってくる。
- 地域の状況も変わってきた。地区によってはコロナ前まで月に1回、飲み会を開いていたが、めっきり少なくなっている。また、空き家も増えている。地区のお年寄りの安否がわからない。子ども達から声を掛けてもらえると嬉しい。
- 北小の子ども達の短所を挙げるとすると、素直過ぎること。→いい意味でも悪い意味でも染まり易い。
- 交流していると自然に地域の声が聞こえてくる。
- 地域の人たちが子どもたちのためにと、見えないところで動いてくれていることがたくさんある。(子どもたちにも是非、知ってほしい。)
- (参観授業より)
- 子ども達は熱心に話を聞いていた。人数が少ないからこそよく人の話が聞ける。
→みんながわかる授業なので、外を眺めている子がいなかった。
- 先生方が子ども達の話のポイントを上手にまとめて板書していた。
- 地域と交流できる場(授業)があり、ありがたい。
- 教科をただ教えるだけでなく地域を絡めている。そのような学びだと人として学べるので、とても感性豊かな授業だった。→ものの考え方を教えることの大事さ
- (その他)
- 清掃が行き届いていた。

今後も地域の皆様方と連携しながら、由比地区の子どもたちを育てていきたいと思っております。皆様の温かいご支援とご協力を引き続きよろしくお願い申し上げます。